



# 八戸

## 八学大公開授業で市の未来像を語る

小林市長

八戸市の小林真市長がこのほど、八戸学院大の公開授業「地域文化論」で講師を務め、学生に市が取り組む施策などについて講義した。

地域文化論は、昨年度からスタートした健康医療学の必修科目で、地域文化の歴史と特性、地域発展に貢献した先人の事例、地域活性化の現状と課題解決策

学生たちに市の施策などについて講義する小林市長

などを学ぶことを目的としている。本年度の公開授業は小林市長のほか市内各分野の代表者らを講師に迎え、11月29日に始まり、来年1月24日までに計5回予定している。

この日の公開授業は同学部の1年生ら約120人が受講した。小林市長はスライドを使って、同市や八戸港の発展の歴史や産業の特徴、将来的な人口見通しなどを説明。「(地域の活力

維持のため)人口の減り方を緩やかに抑えることを目標に筋道を立てて施策を実施している。コミュニティが希薄化する心配があり、住民同士が支え合う環境づくりにも取り組んできた」などと述べた。また、

近隣7町村と3月に始動させた連携中枢都市圏に属している潜在的パワーを周辺に広げ地域経済をけん引していく」と語った。

同学部看護学科1年の橋本航弥さん(19)「五戸町出身は「八戸に住んで9カ月。分らなかった市の事業や財政のことを聞いた。将来救命の仕事に携わりたいので(圏域の)ドクターカー運用についても聞ければさらに良かった」と話した。(岩村史生)